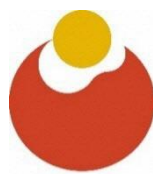


“幸せを運ぶコウノトリ”と 共生するまちづくり アクションプラン

令和2年度～令和5年度



令和2年2月策定



雲南市

目次

I. アクションプラン策定の目的	1
II. アクションプランの位置づけと期間	1
1. アクションプランの位置づけ	1
2. アクションプランの期間	1
III. 基本方針（ビジョン再掲）	2
III. アクションプランの概要（体系図）	3
IV. アクションプラン	5
コウノトリの保護に関する基本的な取り組み	5
1. コウノトリが継続的に営巣できる豊かな環境づくり	6
(1) 学習・情報発信	6
(2) 生きものを育む農業の推進	7
(3) 生物多様性の保全	9
2. コウノトリがもたらす恵みの好循環	11
(1) イメージの活用	11
(2) 産業分野での活用	11
3. 継続的な活動を支える仕組みづくり	13
V. 資料編	15
資料1. コウノトリについて	15
(1) コウノトリ	15
(2) 保護上の位置付け	15
(3) コウノトリの絶滅と復帰	15
資料2. 雲南市とコウノトリの関係	16
(1) 雲南市内のコウノトリに関する動き（一覧）	16
(2) 平成29年（2017年）の繁殖	18
(3) 平成30年（2018年）の繁殖	18
(4) 平成31年、令和元年（2019年）の繁殖	19
資料3. アクションプラン策定経過	20
(1) “幸せを運ぶコウノトリ”と共生するまちづくりアクションプラン策定プロジェクトチーム	20
(2) 市民アンケート調査	21
(3) 「“幸せを運ぶコウノトリ”と共生するまちづくり学習会」の開催	27
(4) 「“幸せを運ぶコウノトリ”と共生するまちづくりアクションプラン（案）」に関するパブリック・コメント（意見募集）	27

I. アクションプラン策定の目的

雲南市では、平成31年3月に「“幸せを運ぶコウノトリ”と共生するまちづくりビジョン」を策定しました。このビジョンは、市内外の共感と協力を得ながらコウノトリが継続的に営巣できる自然豊かな環境づくりに取り組み、コウノトリによってもたらされる恵みを活用して、雲南市総合計画に定めるまちづくりの基本理念「生命と神話が息づく新しい日本のふるさとづくり」を実現していくとともに、雲南市のブランド価値の向上を図ることを目的としています。

「雲南市総合計画」、「第2次雲南市環境基本計画」（平成29年度策定）や「第2次雲南市産業振興ビジョン」（平成26年度策定）などの各種計画の効果をより高めようとするもので、「雲南市まちづくり基本条例」に基づき、協働により取り組んでいくことを基本としています。

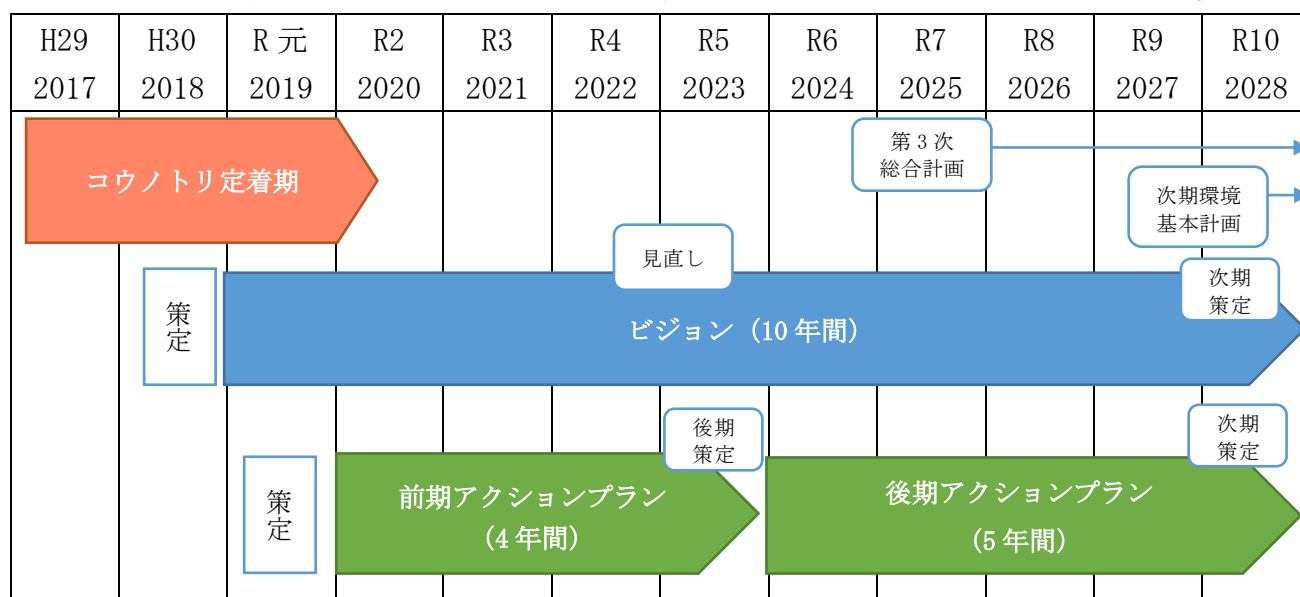
II. アクションプランの位置づけと期間

1. アクションプランの位置づけ

このアクションプランはビジョンを具体化し着実に実現していくために必要な事業を具体的な行動計画としてまとめたものです。

2. アクションプランの期間

ビジョン令和元年度から10年間で、令和5年度に見直します。これに連動し、アクションプランは、前期を令和2年から4年間、後期を令和6年度からの5年間とします。



Ⅲ．基本方針

(ビジョン再掲)

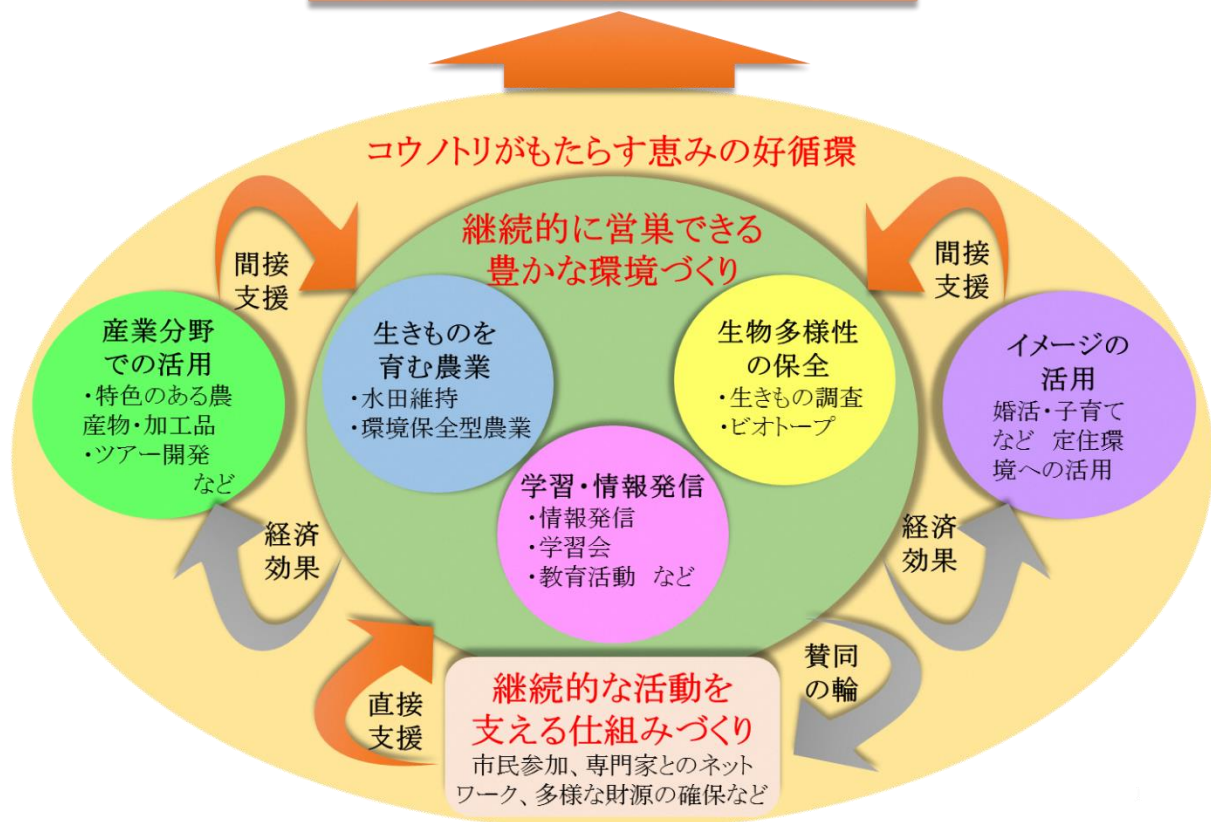
“幸せを運ぶコウノトリ” と共生するまちづくり

1. コウノトリが継続的に営巣できる豊かな環境づくり
2. コウノトリがもたらす恵みの好循環
3. 継続的な活動を支える仕組みづくり

以上の基本方針に基づき“幸せを運ぶコウノトリ” と共生するまちづくりを進め、雲南市のブランド価値の向上を図ります。

“幸せを運ぶコウノトリ” と共生するまちづくり 全体イメージ

雲南市のブランド価値の向上



Ⅲ. アクションプランの概要（体系図）

基本方針（ビジョン）			事業
コウノトリの保護に関する基本的な取り組み			①保護活動
			②観察ルール周知
			③自然環境の保護
			④水辺環境の整備
			⑤愛称募集
1. コウノトリが継続的に営巣できる豊かな環境づくり	(1) 学習・情報発信	コウノトリに関する情報を積極的に発信します	⑥市報等での情報発信
			⑦定点カメラの活用
			⑧施設等での展示
	(1) 学習・情報発信	市民がコウノトリや生物多様性 ^{※1} を学ぶ機会を促進します	⑨学習会の開催
			⑩団体等による学習会の開催の支援
			⑪生きものに関する学習の推進
	(2) 生きものを育む農業の推進	生物多様性を育む水田農業を維持します	⑫水田農業の維持・推進
			⑬冬季湛水 ^{※2} 等の推進
			⑭よけじ ^{※3} の保全・設置啓発
			⑮減農薬・有機農業等の推進
	(3) 生物多様性の保全	専門家によるコウノトリや生物多様性に関する調査を行います	⑯生息環境に関する調査
			⑰調査・研究の積極的な受け入れ
		耕作困難な農地のビオトープ化を推進します	⑱耕作困難な水田のビオトープ ^{※4} 化の推進

※1 生物多様性：「生きものたちの豊かな個性とつながり。生命は全て支えあって生きており、生物多様性を保全することにより人間もより豊かな営みができる」とされている。

※2 冬季湛水：稲刈りが終わった水田に冬期も水を張る農法。雑草の抑制効果等のほか、生物多様性を高める効果があるため、水鳥の生息環境として重要な役割があるとされる。

※3 よけじ：排水促進や用水を温める目的で掘られた水田内の溝。この溝には、入水前や落水後にも水が溜まっていることが多いため、様々な水生生物が水田に水がない時期の生息場所として利用する。「よけじ」という呼称は主に大東町の一部地域で使われている慣習的表現。

※4 ビオトープ：生きものの生息地の意味。動物や植物が恒常的に生活できるように造成又は復元された場所を指すことが多い。生きものの種類によって様々な種類のビオトープが存在する。

基本方針（ビジョン）			事業
2. コウノトリがもたらす恵みの好循環	(1) イメージの活用	コウノトリと共生するまちづくりを表すデザインを作成します	⑱デザインの作成・活用促進
	(2) 産業分野での活用	農産品のブランド化 ^{※5} を推奨します	⑳生きものを育む農業の取組の情報発信
		生物多様性を育む農産品を活用した商品開発を支援します	㉑農商工連携協議会との連携による商品開発促進
		観察ツアー等の開発やガイド育成を推進します	㉒ガイドの育成
			㉓ガイドツアーの商品化
3. 継続的な活動を支える仕組みづくり		市民や企業等が参加し、主役となって支えていきます	㉔市民・団体等の協力体制の拡大
		継続的な活動ができるよう、多様な財源を活用し、支えていきます	㉕クラウドファンディング ^{※6} 型ふるさと納税の導入
			㉖コウノトリ関連の商品の収益の循環
		専門機関や関係団体等とのネットワークを形成します	㉗専門機関・関係団体との連携
		進行管理により、アクションプランを着実に実施します	㉘事業の進行管理

※5 ブランド化：ここでは、ネーミングやデザインだけではなく、情報発信によりその価値が消費者に認知をされている状態を指す。

※6 クラウドファンディング：不特定多数の人がインターネット等経由で、共感するほかの組織等に資金提供や協力などを行うこと。

IV. アクションプラン

コウノトリの保護に関する基本的な取り組み

特別天然記念物であるコウノトリを保護するための基本的な取り組みとして、専門機関や関係団体の指導及び協力の下で、営巣時の観察や足環装着を実施します。また、自然環境の保全や観察ルールへの周知、水辺環境の整備などにより、コウノトリが安全に生息できる環境づくりに取り組みます。また、コウノトリの愛称募集を継続します。有害鳥獣対策に関しては、関係団体等と今後とも慎重に検討していきます。

事業名	事業概要	R 元 (先行)	R 2	R 3	R 4	R 5 (評価)	所管
①保護活動	専門機関や関係団体と連絡調整しながら、コウノトリの保護活動として、営巣時の観察や足環装着を継続する。	専門機関等との連絡・調整 カメラ設置による営巣状況の観察 足環装着					文化財課、林業畜産課
②観察ルールの周知	市報等で観察ルールについて広く周知する。 現地周辺には注意喚起の看板を設置する。	市報等での観察ルールの周知 現地周辺での注意看板等の設置					文化財課
③自然環境の保護	自然環境の保護や不法投棄防止について市報等で啓発するとともに、パトロールや水質検査を実施する。	不法投棄防止啓発・周知 パトロール・水質検査					環境政策課
④水辺環境の整備	国土交通省等と連携し、水鳥の生息に適した斐伊川等の護岸や河川敷を整備する。	計画 実施					都市計画課
⑤愛称募集	市内で生まれたコウノトリのヒナに公募により愛称をつける。	愛称募集					地域振興課

1. コウノトリが継続的に営巣できる豊かな環境づくり

コウノトリが継続的に営巣できる環境づくりをするために、まず、コウノトリや生物多様性に関する理解を拡げ、深めるために情報発信や学習会等を実施します。その上で、環境づくりの核となる取り組みとして多種多様な生きものを育む農業を推進します。そして、その状況を評価するための調査などにより、生物多様性の保全に取り組みます。

(1) 学習・情報発信

コウノトリの生態をはじめ、生物多様性やその保全等について市報等を活用した情報発信や学習会を開催し、市民等の関心や知識を高めます。

●コウノトリに関する情報を積極的に発信します

事業名	事業概要	R元 (先行)	R 2	R 3	R 4	R 5 (評価)	所管
⑥市報等での情報発信	市報や市のホームページにコウノトリのコーナーを設け、営巣状況等を積極的に紹介する。	検討	市報、ホームページへの掲載				文化財課、地域振興課
⑦定点カメラの活用	繁殖時の観察用定点カメラの映像をインターネット等で公開する。	検討・準備	インターネット等での公開				文化財課
⑧施設等での展示	パネル等を作成し、市内の図書館、文化ホール等の公共施設やイベントでの展示を促進する。	実施					文化財課

●市民がコウノトリや生物多様性を学ぶ機会を促進します

事業名	事業概要	R 元 (先行)	R 2	R 3	R 4	R 5 (評価)	所管
⑨ 学習会の開催	コウノトリや生物多様性をはじめ、市内の取組や調査結果などをテーマに学習会を年 2 回程度開催する。	学習会の開催					文化財課、地域振興課
⑩ 団体等による学習会の開催の支援	出前講座のメニューにコウノトリ・生物多様性を追加し、市内の団体等が実施する学習会を支援する。	講座の内容の検討・準備					文化財課、地域振興課
		出前講座の実施					

●学校等で、生物多様性を学ぶ機会を設けます

事業名	事業概要	R 元 (先行)	R 2	R 3	R 4	R 5 (評価)	所管
⑪生きものに関する 学習の推進	関係図書の購入や講師の派遣等により、小中学校における市内・校区内の生きものを題材とした学習や田んぼ等で生きもの調査などの取組を推進する。	検討・準備	実施状況の調査				学校教育課
			図書購入・講師派遣				

(2) 生きものを育む農業の推進

雲南市には、棚田などの耕作に労力を要する水田が多くありますが、農家の努力によって受け継がれてきたことが、コウノトリの飛来・営巣につながったと考えられます。

今後もコウノトリが継続的に営巣していくためには、水田農業を維持していくことが重要です。中山間地域の農地の維持を目的とした中山間地域等直接支払制度などを今後とも積極的に推進します。

環境に配慮した農業を推進するため、冬季湛水や中干し^{※7}の時期の調整などについて検討し、農作業等に支障のない範囲で啓発を行います。特に山際の水田で主に見られる水田の中の溝「よけじ」や、ため池が生物多様性における重要な役割を果たしており、その調査・検討ののち取り組みを啓発します。また、これまでも市内で取り組まれてきた減農薬等の取り組みを引き続き推進します。

●生物多様性を育む水田農業を維持します

事業名	事業概要	R元 (先行)	R 2	R 3	R 4	R 5 (評価)	所管
⑫ 水田農業の維持・推進	水田農業を維持するため、中山間地域等直接支払制度等の活用を推進する。	中山間地域等直接支払制度の活用					農政課

●環境に配慮した農業を推進します

事業名	事業概要	R元 (先行)	R 2	R 3	R 4	R 5 (評価)	所管
⑬ 冬季湛水等の推進	冬季湛水等を推進するため、具体的な実施方法を整理し、農家へ啓発する。	検討・準備		普及・啓発			農政課、地域振興課
⑭ 全・よけじの設置推奨	よけじの保全や設置を推奨するため、設置方法や既存の補助制度等を啓発する。	調査・検討・準備			補助制度		農政課
⑮ 減農薬・有機農業等の推進	減農薬・有機農業等を農業団体等と連携して推進する。また、環境保全型農業直接支払交付金制度を活用する。	減農薬栽培等の推進					農政課
		環境保全型農業直接支払制度の活用					

※7 中干し：初夏に田んぼの水を抜き、表面を乾かして稲を丈夫にしたり、田面を固くする作業。時期を延期するとオタマジャクシなどが成長する期間を確保することができる。

(3) 生物多様性の保全

コウノトリや生物多様性を育む取り組みには、科学的な調査や分析が欠かせません。また、農作物のブランド化にも重要な証拠となると考えられます。このため、専門家等と連携し、コウノトリや水田・ビオトープの生きもの調査を実施します。また、大学等の調査・研究を積極的に受け入れられるよう、ホームページ等で情報発信します。これらの調査・研究の結果は学習会等の機会を通じて公表していきます。

共生という観点では、水田農業を維持することが重要ではありますが、耕作困難な農地については、他の農地への悪影響も懸念されることから、耕起・水張りなどを行い復田できるような管理（ビオトープ化）により、生物多様性を育む環境づくりを推奨します。この具体的な方法については、専門家等と検討し、啓発を図ります。

● 専門家によるコウノトリや生物多様性に関する調査を行います

事業名	事業概要	R 元 (先行)	R 2	R 3	R 4	R 5 (評価)	所管
⑩ 生息環境に関する調査	専門家等の指導や協力のもと、コウノトリや生物多様性に関する調査を実施する。	先行調査・検討		調査実施			文化財課、農政課、地域振興課
⑪ 調査・研究の積極的な受け入れ	大学等による調査・研究を積極的に受け入れる。 調査研究結果は学習会等で公開する。	調査・研究の受け入れ					文化財課、地域振興課

●耕作困難な農地のビオトープ化を推奨します

事業名	事業概要	R 元 (先行)	R 2	R 3	R 4	R 5 (評価)	所管
⑱ 耕作困難な水田の ビオトープ化の推奨	耕作困難な水田のビオ トープ化の方法を検討 し、啓発を図る。	方法の検討		普及啓発			農政課

2. コウノトリがもたらす恵みの好循環

コウノトリは、「赤ちゃん」や「幸せ」を運ぶ鳥といったイメージが広く浸透しています。コウノトリをはじめとする生物多様性を育む取組みは、経済などにも好影響をもたらすことが考えられます。継続的な取組みを行うためにも、コウノトリによってもたらされる恵みの積極的な活用による好循環を生み出します。

(1) イメージの活用

コウノトリは、赤ちゃんや幸せを運ぶ鳥としてとても良いイメージを持っている鳥です。「“幸せを運ぶコウノトリ”と」を象徴するデザインを作成し、市内の団体・企業をはじめ、行政における環境関連、定住、子育てなどの分野において幅広く活用していきます。デザインの作成にあたっては、企業等の意向も踏まえて検討することとします。

●コウノトリと共生するまちづくりを表すデザインを作成します

事業名	事業概要	R元 (先行)	R 2	R 3	R 4	R 5 (評価)	所管
①⑨ デザインの作成・活用 促進	コウノトリと共生するまちづくりを表すデザインを作成し、活用を促進する。		検討				地域振興課、 商工振興課
			作成				
				活用促進			

(2) 産業分野での活用

コウノトリや生物多様性を育む取組みの中で生産される農産物については、その理念、労力、ストーリー、証拠などを市のホームページ等で発信することにより、付加価値の高いものとなるよう取り組みます。また、雲南市農商工連携協議会等との連携により、農産物やコウノトリなどのイメージを活用した商品の開発を進めます。さらに農産物や開発された商品は、ふるさと納税の返礼品などへの登録を推進します。

また、雲南市観光協会等と連携し、専門家のアドバイスのもと、生きものの観察などのツアーの開発を取り組みます。

●農産品のブランド化を推奨します

事業名	事業概要	R元 (先行)	R 2	R 3	R 4	R 5 (評価)	所管
②⑩ 生きものを育む農業の取組の情報発信	水田の生きものや生物多様性を育む農業の取り組みや農産物をホームページ等で積極的に紹介し、ブランド化を推奨する。	検討・準備	情報収集	情報発信			農政課、地域振興課

●生物多様性を育む農産品を活用した商品開発を支援します

事業名	事業概要	R元 (先行)	R 2	R 3	R 4	R 5 (評価)	所管
②⑪ 農商工連携協議会との連携による商品開発促進	雲南市農商工連携協議会において、米粉を中心としたコウノトリにまつわる食材を使った商品開発を行う。	検討・準備	商品開発・販売				商工振興課

●観察ツアー等の開発やガイド育成を推進します

事業名	事業概要	R元 (先行)	R 2	R 3	R 4	R 5 (評価)	所管
②② ガイドの育成	研修会を開催し、コウノトリや生物多様性に詳しいガイドを育成する。	検討	研修会開催				観光振興課
②③ ガイドツアーの商品化	雲南市観光協会と連携しガイドツアーの商品化と情報発信する。	検討・準備	情報発信、ツアー実施				観光振興課

3. 継続的な活動を支える仕組みづくり

生物多様性を育む活動を継続していくためには、多くの方々の参画や支援が必要となります。市民や団体等の自主的な取り組みを支援するとともに、共感する個人や団体等が様々な活動に参加できるような仕組みとしてリスト等を作成します。

さらに、ふるさと納税やクラウドファンディングなどによる多様な財源を活用し、コウノトリや生物多様性を育む活動を資金面で支えていきます。

また、「斐伊川水系生態系ネットワークによる大型水鳥類と共に生きる流域づくり検討協議会（事務局：国土交通省出雲河川事務所）」や「出雲・雲南地域広域連携生態系ネットワーク推進協議会（事務局：島根県、出雲市、雲南市）」などにより関係団体、専門家等との様々な活動がより効果的・効率的に取り組めるようネットワークを形成します。

このアクションプランを着実に実施するため、各所管課等と連絡調整をしながら事業の進行を管理します。

● 市民や企業等が参加し、主役となって支えていきます

事業名	事業概要	R元 (先行)	R 2	R 3	R 4	R 5 (評価)	所管
②④市民・団体等の 協力体制の拡大	様々な活動に参加できる市民・団体等をリスト化し、活動参加を呼びかける。		準備	情報収集・募集			地域振興課

●継続的な活動ができるよう、多様な財源を活用し、支えていきます

事業名	事業概要	R元 (先行)	R 2	R 3	R 4	R 5 (評価)	所管
②⑤ クラウドファンディング型ふるさと納税の導入	コウノトリと共生するまちづくりプロジェクトを掲げてクラウドファンディング型ふるさと納税の寄付を募る。	検討	募集開始				地域振興課、政策推進課
②⑥ 商品の収益の循環	コウノトリ関連商品の収益の一部をコウノトリと共生するまちづくりの事業へ活用する。	検討・準備		実施			地域振興課

●専門機関や団体等とのネットワークを形成します

事業名	事業概要	R元 (先行)	R 2	R 3	R 4	R 5 (評価)	所管
②⑦ 団体等の連携	専門機関や関係団体との連携により様々な活動がより効果的・効率的に取り組めるようネットワークを形成します。	実施					地域振興課

●進行管理により、アクションプランを着実に実施します

事業名	事業概要	R元 (先行)	R 2	R 3	R 4	R 5 (評価)	所管
②⑧ 事業の進行管理	着実な事業実施のための、各所管との連絡調整をしながら各事業の進行を管理する。	進行管理					地域振興課

V. 資料編

資料 1. コウノトリについて

(1) コウノトリ

【鳥類分類】 コウノトリ目 コウノトリ科 コウノトリ属 コウノトリ種

【学名】 キコニア・ボイキアナ (和名：コウノトリ)

【生息地】 ロシア・中国・台湾・韓国・日本

(2) 保護上の位置付け

【文化財保護法】

特別天然記念物（天然記念物の中でも特に重要なもの）

【環境レッドリスト】

絶滅危惧ⅠA類（ごく近い将来、野生での絶滅の危険性が極めて高い）

(3) コウノトリの絶滅と復帰

昭和 40 年（1965 年）	コウノトリ人工飼育の始まり
昭和 46 年（1971 年）	日本の野外でコウノトリが絶滅
平成元年（1989 年）	人工繁殖に成功
平成 11 年（1999 年）	「兵庫県立コウノトリの郷公園」が開園
平成 17 年（2005 年）	コウノトリ試験放鳥はじまる
平成 19 年（2007 年）	野外でヒナ誕生・巣立ち（国内で 46 年ぶり）
平成 24 年（2012 年）	初めて豊岡市外で繁殖。放鳥 3 世の誕生

資料 2. 雲南市とコウノトリの関係

(1) 雲南市内のコウノトリに関する動き (一覧)

近年の雲南市内におけるコウノトリに関連する動きは次のとおり。

年	月 日	内 容
平成 29 年 (2017 年)	3 月 16 日	げんきくん(J0118)とななちゃん(J0047)が造巢
	3 月 30 日	産卵確認
	4 月 26 日	ふ化 (4 羽)
	5 月 19 日	ななちゃん(J0047)死亡
	5 月 21 日	ヒナを保護
	7 月 7 日	愛称決定
	7 月 12 日	ヒナを放鳥
	9 月	西小学校で「げんきくんとひな達応援プロジェクト」が開始
	10 月 30 日	雲南市が「斐伊川水系生態系ネットワークによる大型水鳥類と共に生きる流域づくり検討協議会」加盟
	11 月 2 日	春殖地区振興協議会が雲南市へ「コウノトリと共生するまちづくり」のための指定寄附
	11 月 28 日	西小学校校庭に人工巣塔を設置
	12 月 26 日	「斐伊川水系生態系ネットワークによる大型水鳥類と共に生きる流域づくり検討協議会 地域づくり部会 雲南圏域ワーキング」(以下、「雲南圏域ワーキング」)の開催
平成 30 年 (2018 年)	2 月 19 日	げんきくん(J0118)とポンスニ(J0051)が造巢
	3 月 10 日	産卵確認
	4 月 13 日	ふ化 (4 羽)
	5 月 25 日	足環装着
	6 月 8 日	西小学校児童が市長に対し、コウノトリ学習の成果を発表するとともにヒナの愛称をつけたいと要望。今後、営巣地の小学校で半分、残りは市民公募とすることに決定
	6 月 24 日	巣立ち (4 羽目)
	6 月 29 日	愛称決定
	10 月 23 日	加茂町神原地内に市内 2 基目となる人工巣塔を設置
	11 月 11 日	「第 1 回雲南市環境会議」にて兵庫県立コウノトリの郷公園園長の山岸氏が同年 9 月 15 日に発行された「げんきくん物語」について講演

年	月 日	内 容
	11 月 22 日	「雲南圏域ワーキング」の開催 コウノトリと共生するまちづくりビジョン（案）について
平成 31 年 令和元年 (2019 年)	1 月 27 日	「コウノトリの会春殖」設立
	1 月 28 日	「雲南圏域ワーキング」の開催 島根県、出雲市、雲南市による「出雲・雲南地域広域連携生態系ネットワーク推進協議会」設立、第 1 回会議開催
	2 月 9 日	「“幸せを運ぶコウノトリ” と共生するまちづくり学習会」開催 講師：地域力創造アドバイザー 大和田順子 氏
	2 月 12 日	げんきくん(J0118)とポンスニ(J0051)が西小学校の人工巣塔で造巢
	3 月 4 日	産卵確認
	3 月末	“幸せを運ぶコウノトリ” と共生するまちづくりビジョン策定
	4 月 8 日	ふ化推定(4 羽)
	5 月 20 日	足環装着
	6 月 18 日	巣立ち (4 羽目)
	6 月 20 日	愛称決定
	7 月 5 日	第 2 回 出雲・雲南地域広域連携生態系ネットワーク推進協議会 開催
	8 月 9 日	「“幸せを運ぶコウノトリ” と共生するまちづくり学習会」開催 講師：NPO 法人田んぼ代表理事 船橋玲二 氏
	8 月下旬～	大正大学人間学部人間環境学科との連携により「コウノトリに関する意識調査（アンケート）」実施
	11 月 23 日	コウノトリやトキと共生するまちづくりシンポジウム「大型水鳥が教えてくれるふるさとの魅力」 基調講演：「環境革命の時代に コウノトリとトキが出雲・雲南にもたらすもの」 講 師：東京都市大学特別教授 涌井史郎氏 主 催：出雲・雲南地域広域連携生態系ネットワーク推進協議会
	12 月 18 日	第 3 回 出雲・雲南地域広域連携生態系ネットワーク推進協議会 開催

(2) 平成 29 年 (2017 年) の繁殖

ペア：げんきくん (J0118)、ななちゃん (J0047)

場所：大東町大東下分

月 日	内容
3 月 16 日	造巢
3 月 30 日	産卵確認
4 月 26 日	ふ化
5 月 19 日	誤射
5 月 21 日	ヒナを保護
7 月 12 日	ヒナを放鳥

●平成 29 年生まれのヒナ（「足環カタログ」より、令和 2 年 1 月 17 日現在）

個体番号	愛称	足環の色	性別	備考
J0173	春希くん	左：緑青、右：黄黄	オス	公募
J0174	うららくん	左：緑緑、右：黄黄	オス	公募
J0175	姫ちゃん	左：黒黒、右：赤黄	メス	西小 2019. 7. 25 行方不明
J0176	げんちゃん	左：黒黄、右：黄赤	オス	西小 2017. 8. 8 死亡

(3) 平成 30 年 (2018 年) の繁殖

ペア：げんきくん (J0118)、ポンスニ (J0051)

場所：大東町大東下分（平成 29 年と同じ場所）

月 日	内容
2 月 19 日	造巢
3 月 10 日	産卵確認
4 月 13 日	ふ化
5 月 25 日	足環装着
6 月 24 日	巣立ち（4 羽目）

●平成 30 年生まれのヒナ（「足環カタログ」より、令和 2 年 1 月 17 日現在）

個体番号	愛称	足環	性別	備考
J0196	はるか	左：緑黄、右：黄赤	メス	公募
J0197	らいむ	左：緑赤、右：黄赤	メス	公募
J0198	永遠（とわ）	左：緑青、右：黄赤	メス	西小
J0199	きらら	左：緑緑、右：黄赤	メス	西小 2019. 12. 16 行方不明

(4) 平成 31 年、令和元年 (2019 年) の繁殖

ペア：げんきくん (J0118)、ポンスニ (J0051)

場所：大東町仁和寺 雲南市立西小学校の人工巣塔

月 日	内容
2 月 12 日	造巢
3 月 4 日	産卵確認
4 月 8 日	ふ化推定
5 月 20 日	足環装着
6 月 18 日	巣立ち (4 羽目)

●平成 31 年生まれのヒナ (「足環カタログ」より、令和 2 年 1 月 17 日現在)

個体番号	愛称	足環	性別	備考
J0231	れいな	左：黄黄、右：黄緑	メス	公募
J0233	ほのか	左：黄青、右：黄緑	メス	公募
J0234	いぶき	左：黄緑、右：黄緑	オス	西小
J0235	あおば	左：赤黒、右：黄緑	メス	西小

資料 3. アクションプラン策定経過

(1) “幸せを運ぶコウノトリ”と共生するまちづくりアクションプラン策定プロジェクトチーム

前年度からの市民の意見、専門家等及び学習会での意見聴取、アンケート調査の結果をもとに、プロジェクトチーム（P T）で議論を重ね素案としてとりまとめた。

・プロジェクトチーム構成員

	部	課	職	氏名
リーダー	政策企画部	地域振興課	課長	板 持 周 治
サブリーダー	教育委員会	文化財課	副主幹	高 橋 誠 二
委員	政策企画部	政策推進課	主幹	松 蔭 佳 子
委員	市民環境部	環境政策課	副主幹	江 角 徹
委員	農林振興部	農政課	主幹	女鹿田 秀 穂
委員	農林振興部	林業畜産課	主幹	荒 木 公 栄
委員	産業観光部	商工振興課	副主幹	須 山 雄 介
委員	産業観光部	観光振興課	主任主事	伊 藤 恭 将
委員	建設部	都市計画課	主幹	伊 藤 大 輔
委員	教育委員会	学校教育課	主幹	今 岡 博 美
委員	大東総合センター	自治振興課	統括主幹	加 納 寿 伸
事務局	政策企画部	地域振興課	統括主幹	板 垣 健 一
事務局	政策企画部	地域振興課	主幹	鶴 原 隆

・会議等の開催状況

月 日	会議等	概要
6 月 13 日	第 1 回 P T	ビジョン確認、策定プロセス、事業アイデア出し
6 月 26 日	第 2 回 P T	事業アイデア出し
7 月 16 日	第 3 回 P T	関連事業調査結果、事業体系整理
8 月 21 日	第 4 回 P T	担当課の設定、重要項目の設定
9 月 27 日	第 5 回 P T	事業の確認
10 月 21 日	第 6 回 P T	アンケート結果、プラン案の確認

(2) 市民アンケート調査

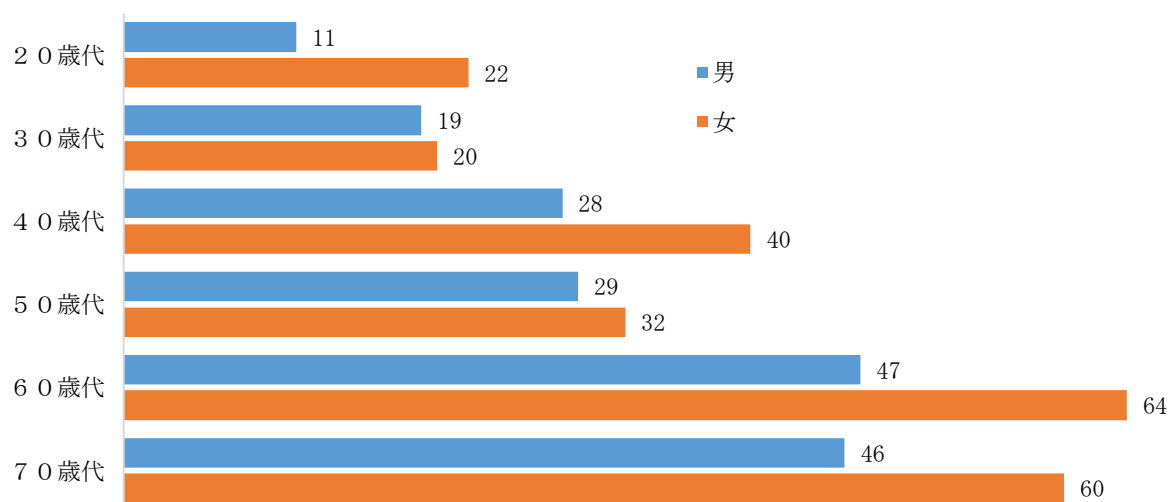
大正大学人間学部人間環境学科准教授本田裕子氏との連携により、雲南市民を対象とした「コウノトリに関する意識調査」を実施した。雲南市に住民票を有する 20 歳から 79 歳までの 1,000 人を対象者として、8 月 1 日現在の住民基本台帳から無作為抽出し、令和元年 8 月下旬に送付し、9 月末に 423 人からの回答があった。

<アンケートの構成>

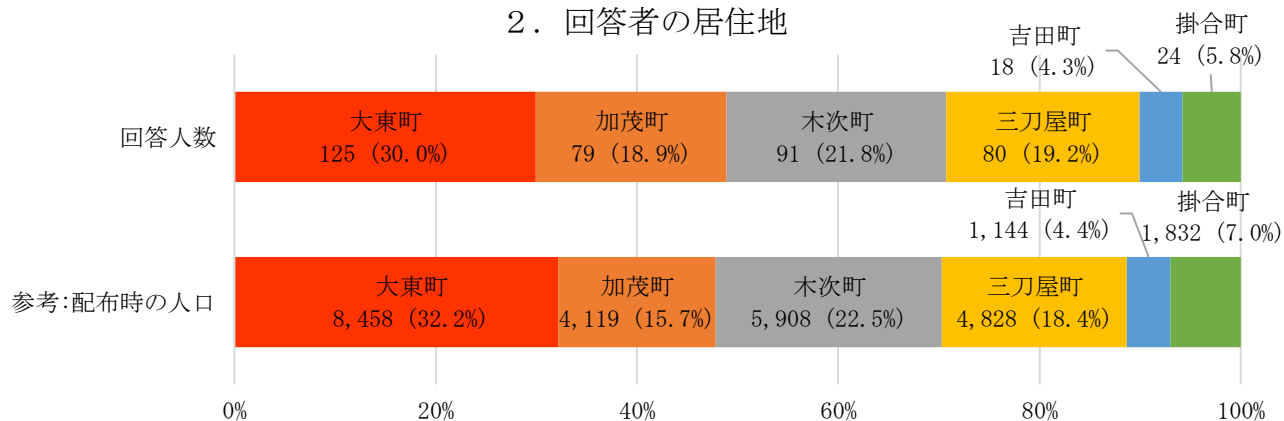
番号	質問内容
1	回答者の年齢・性別
2	回答者の居住地・雲南市内の居住年数
3	地域（島根県・雲南市・住んでいる地域）への定住意思の程度
4	回答者の職業
5	「雲南市を象徴するもの」と聞いて最も強くイメージするもの
6	「雲南市の自然」と聞いて最も強くイメージするもの
7	「雲南市の生き物」と聞いて最も強くイメージするもの
8	環境問題への関心
9	4 種の鳥の写真からコウノトリを選ぶ
10	「コウノトリ」と聞いて最も強くイメージするもの
11	コウノトリに関する認知
12	雲南市の地域づくり・環境政策への関心
13	雲南市内でのコウノトリの目撃
14	雲南市内でのコウノトリの生息数（現在・今後）
15	雲南市が「コウノトリとの共生」を活かしたまちづくりを推進することの賛否
16	雲南市の「コウノトリとの共生」を活かしたまちづくりへの期待
17	コウノトリの雲南市内での生息希望
18	雲南市内でのコウノトリの生息数増加のために何かをする意思
19	コウノトリ保護のための環境教育や啓発活動
20	雲南市内でのコウノトリの生息についての心配
21	コウノトリが農業被害を与えることへの認識
22	2017 年 5 月に発生したコウノトリ誤射事件の認知と今後の対応
23	回答者の身の周りでサギによる被害が発生しているか
24	野外で生息するコウノトリの死亡について
25	雲南市内で生息するコウノトリの責任主体について
26	回答者自身のコウノトリの位置づけ
27	雲南市内に生息するコウノトリ以外に守るべき野生動植物
28	雲南市内の環境課題
29	雲南市の課題：重要だと思うか・施策に満足しているか

<アンケート調査結果概要>

1. 回答者の年齢・性別



2. 回答者の居住地



5. 「雲南市を象徴するもの」と聞いて最も強くイメージするもの

※自由記述、上位10件

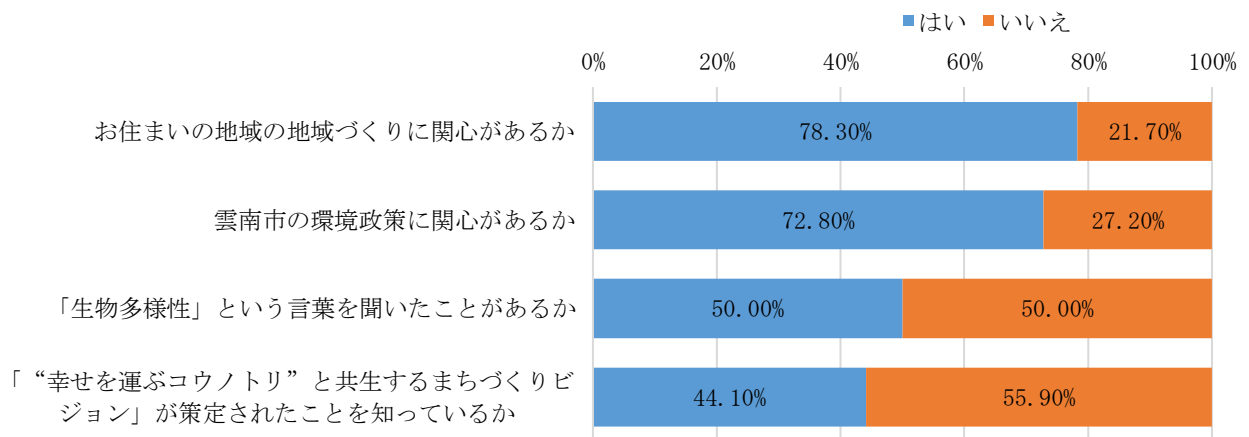
	回答	人数	割合 (%)
1	桜 (並木、土手含む)	129	35.0
2	自然 (豊かな自然、美しい自然含む)	27	7.3
3	たたら	25	6.8
4	コウノトリ	21	5.7
5	永井 隆	16	4.3
6	神話	15	4.1
7	神楽	12	3.3
8	銅鐸	10	2.7
9	山・山林	9	2.4
10	ヤマタノオロチ	8	2.2

7. 「雲南市の生き物」と聞いて最も強くイメージするもの

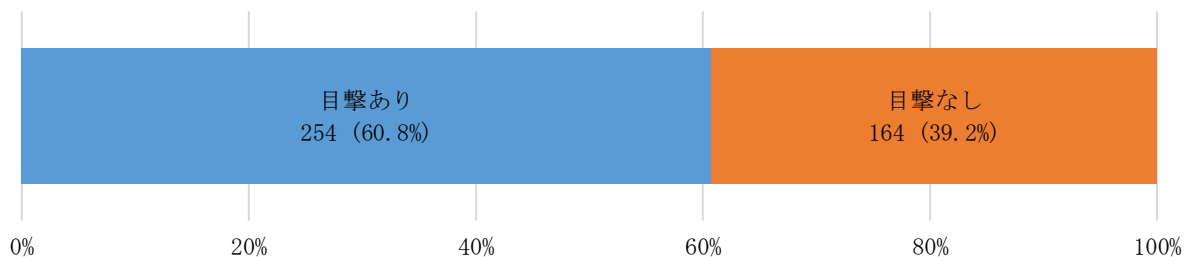
※自由記述、上位5件

	回答	人数	割合 (%)
1	コウノトリ	190	52.8
2	イノシシ	65	18.1
3	ホタル	31	8.6
4	オオサンショウウオ、サンショウウオ	14	3.9
5	ウシ（乳牛、和牛含む）	8	2.2
5	サル	8	2.2

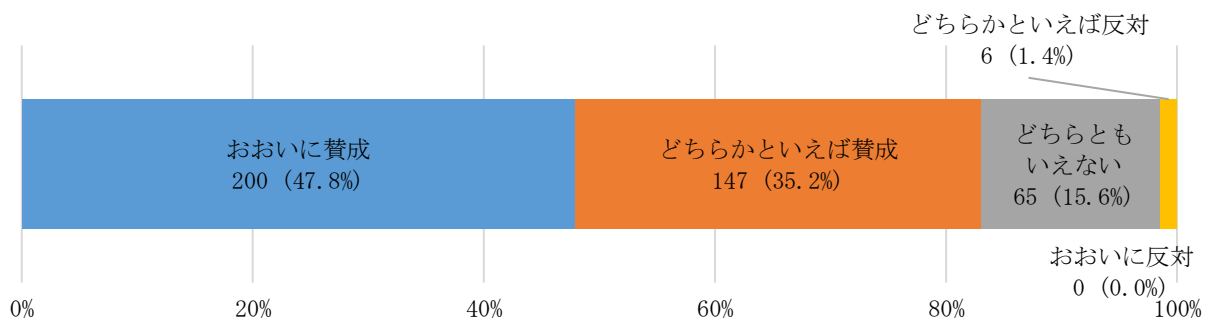
1 2. 雲南市のまちづくり・環境政策への関心



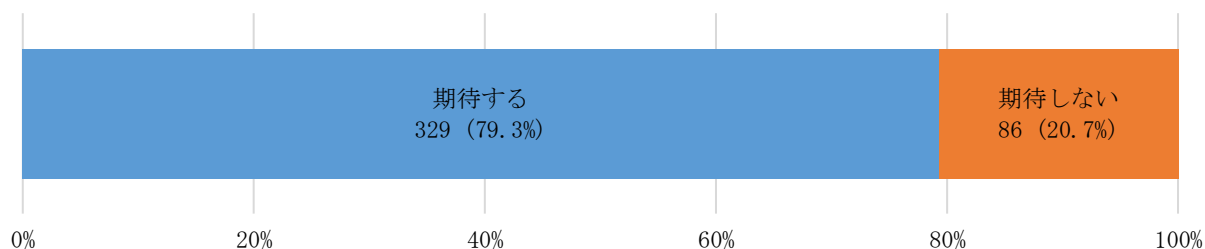
1 3. コウノトリの目撃



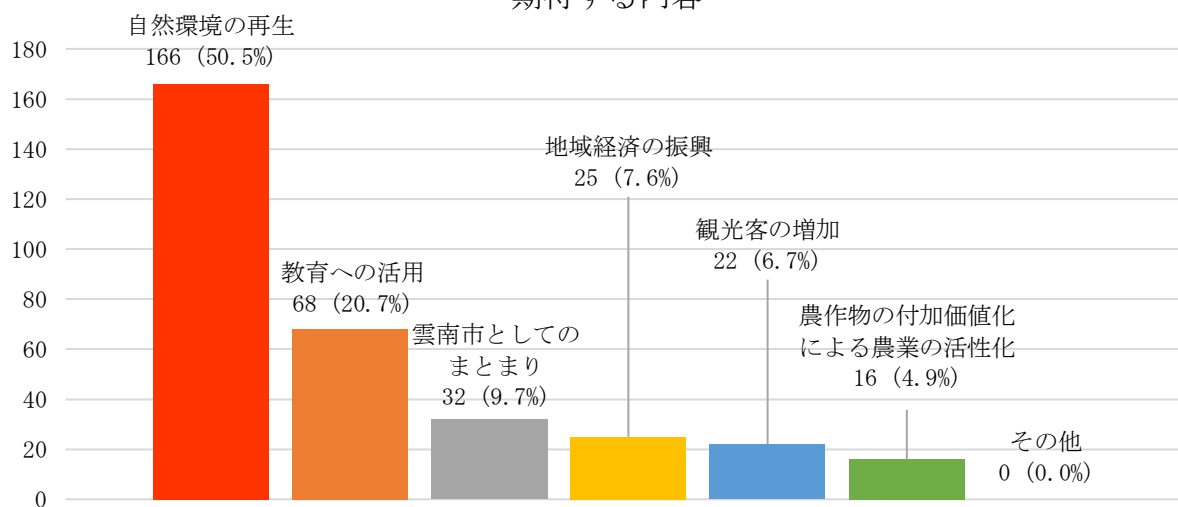
1 5. 「コウノトリとの共生」を活かしたまちづくりへの賛否



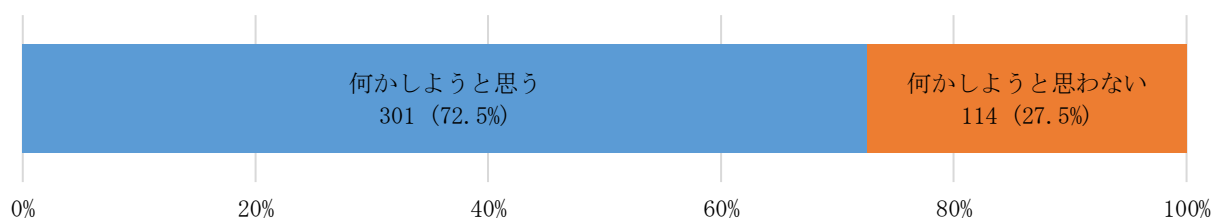
16-1. 「コウノトリとの共生」を活かしたまちづくりへの期待



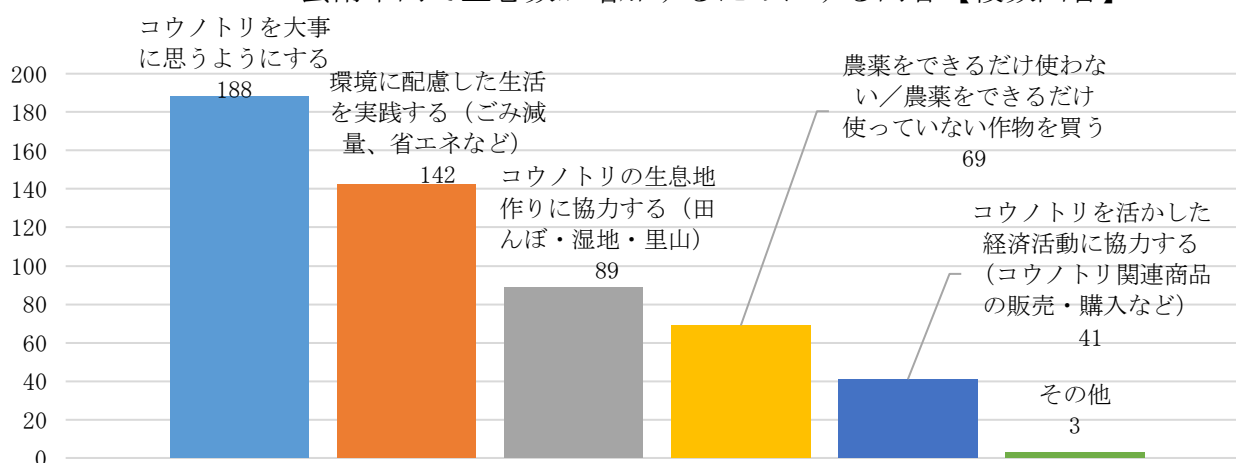
16-2. 「コウノトリとの共生」を活かしたまちづくりに期待する内容



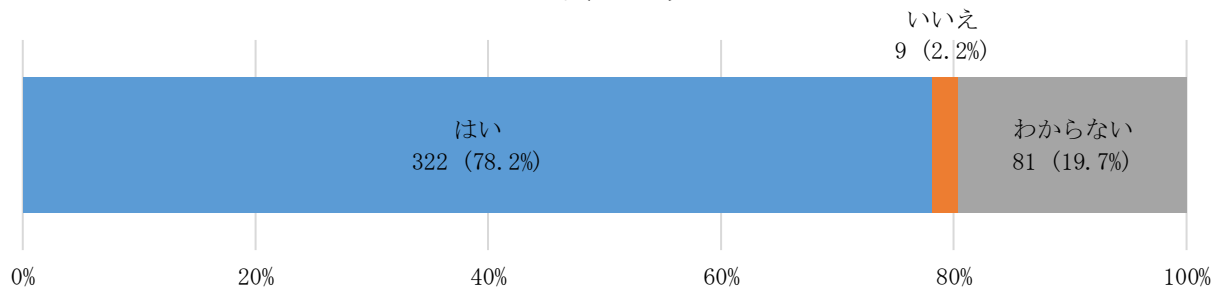
18-1. 雲南市内で生息数が増加するために何かする意思



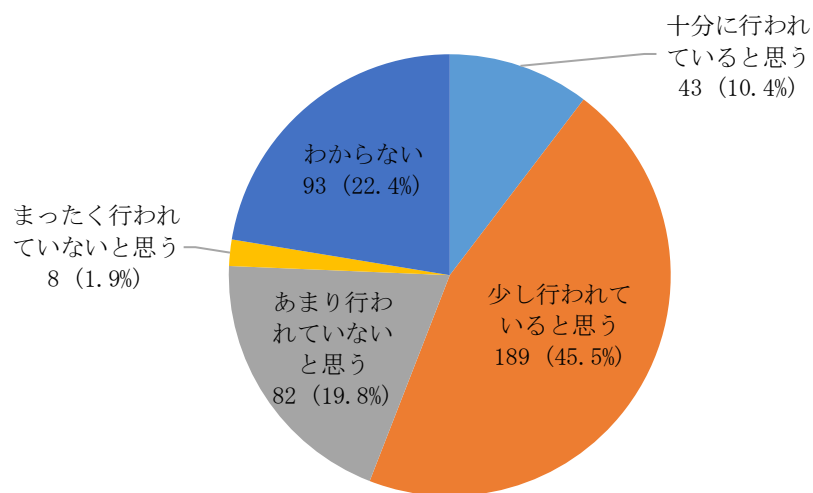
18-2. 雲南市内で生息数が増加するためにする内容【複数回答】



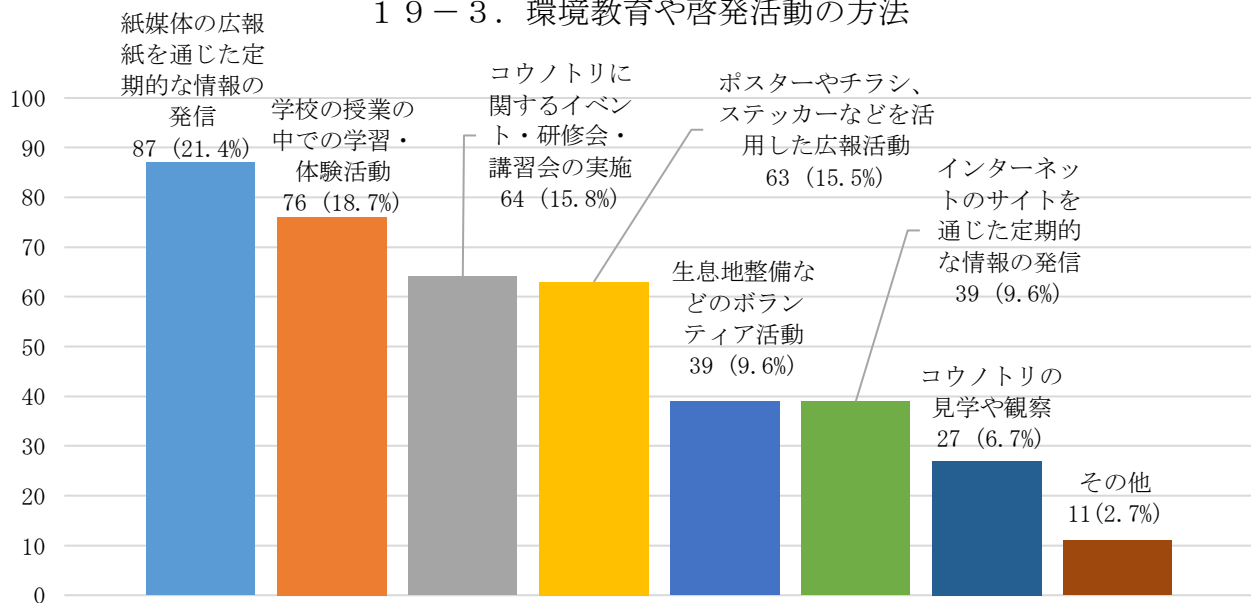
19-1. コウノトリの保護のために環境教育や啓発活動が雲南市
で必要かどうか



19-2. コウノトリの保護のために環境教育や啓発活動が
雲南市で行われているか

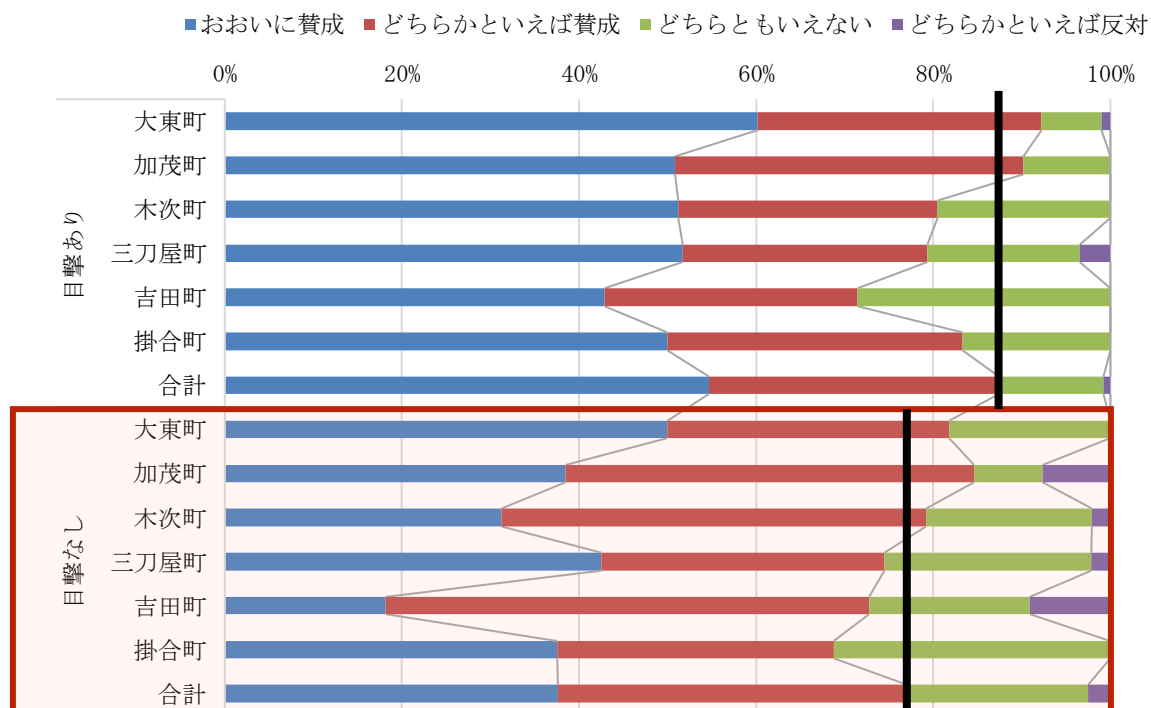


19-3. 環境教育や啓発活動の方法

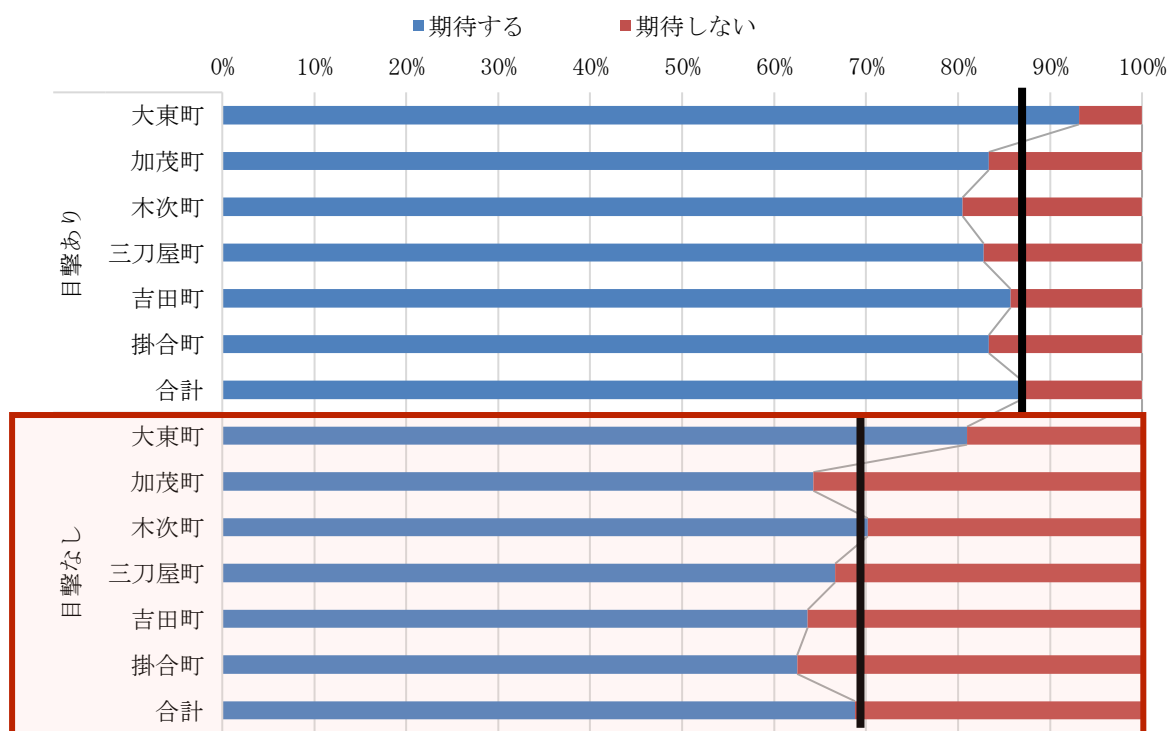


参考：クロス集計（目撃の有無、町別の比較）

●「コウノトリとの共生」まちづくり推進の賛否



●「コウノトリとの共生」まちづくりに関する期待の有無



(3) 「“幸せを運ぶコウノトリ”と共生するまちづくり学習会」の開催

コウノトリと共生するまちづくりについて学び意見交換をする場として開催し、約 50 名が参加されました。

開催日：令和元年 8 月 9 日（金） 14：00～16：00

主 催：雲南市

会 場：チェリヴァホール 3 階大会議室

内 容：●講演 演題：「田んぼの生き物認証の可能性」

講師：NPO 法人田んぼ 代表理事 船橋玲二 氏

●リレートーク

島根県技術士会の取組 技術士会 大嶋辰也氏、田中秀典氏

雲南市立西小学校の取 教頭 山本芳正氏

●意見交換：振り返り、今後に向けたアイディア出し

(4) 「“幸せを運ぶコウノトリ”と共生するまちづくりアクションプラン（案）」に関するパブリック・コメント（意見募集）

・意見募集期間 令和元年 12 月 23 日～令和 2 年 1 月 23 日

・意見提出人数 0 人

・意見提出件数 0 件

幸運なんです。

雲南です。